

平成 23 年第 1 回海岸工学委員会幹事会議事録

開催日時：平成 23 年 9 月 28 日（水）14:00－17:00

開催場所：土木学会 A B 会議室

出席者：後藤幹事長、青木、岡安、重松、森、横木、小林、佐々木、富田、渡部、小笠原、北野、栗山、榊山、劉（佐藤代理）、諏訪、武若、丹治、藤間、森屋、上月の各委員兼幹事（21 名）

欠席者：間瀬委員長、今村、水谷、川崎、日向、柿沼、高木、陸田の各委員兼幹事（8 名）
間瀬委員長の議決権は後藤幹事長に委任

資料：・海岸工学幹事会（第 1 回）次第
・ PowerPoint スライド

審議前報告事項

1. 他委員会への派遣委員の交代（後藤幹事長）

論文賞選考委員会へ派遣される委員が、今村委員(H22)から青木委員(H23,24)に交代した。

審議・報告事項

1. 前回議事録の確認（後藤幹事長）

前回議事録が確認された。

2. 報告事項（後藤幹事長）

- 出版企画の募集については、7/27 に事務局から各小委員長に連絡済み。
- H22 年度活動度評価は、I:A、II:A、III:A、総合 A だった。

3. 海岸工学論文集第 58 巻 発刊準備状況について（青木海岸工学論文集編集小委員会小委員長）

- 投稿論文 368 編のうち、第 1 段審査通過論文数 287、第 2 段審査通過論文数 282（不採択 2、辞退 3）、採択論文数 279（辞退 3）となった。
- アブストラクト登録時の投稿者が添付ファイルを間違えたことにより、掲載不可となる例があった。
- J-STAGE へのアップのための BIB 入力、アップロード作業は昨年と同じ業者に依頼する。土木学会の指定業者より低コストであり、実績もあるので、土木学会論文集編集調整会議ではその旨発言する。
- 国際セッション Proc.の名称等（英文）が確認された。
- 論文集価格は 5000 円、著者負担金 3 万 5 千円となった（上限を 4 万円として告知済み）。
- 以下に示す論文集編集における検討課題について報告された。

- フォーマットの変更
- 組版（高品位の体裁）維持の是非
- 土木学会論文集 B・2（通常号）への投稿促進策
- 国際セッションの活発化
- 通常号掲載分の講演会での発表枠の創設について提案があり、以下に示す案で委員会に諮ることになった。（後藤幹事長）
 - 4月上旬までに土木学会論文集通常号への採択が決定している論文を対象にする。当面、報告・ノート・招待論文も対象外にせず、候補に含める。
 - 当該論文の投稿者連絡先情報を土木学会論文集編集委員（森委員兼幹事）から入手し、講演会での発表の意志の有無を問い合わせる文書を委員長名で送付する。
 - 発表の意志のある場合には、講演申込料 20,000 円を徴収する。
 - 来年から実施する。
- 来年度の編集・出版形態は現状通りとする。

4. 海岸工学論文賞候補論文および海岸工学萌芽論文賞（学生論文奨励賞）の創設について（後藤幹事長）

- 海岸工学論文賞については、原案の通り 3 編の論文を候補論文とする。受賞候補者には、講演会閉会式の際の授賞式出席を依頼するため連絡する。
- 若手の研究奨励のための論文賞については、以下の案で委員会に諮ることになった。
 - 名称は、海岸工学論文奨励賞とする。
 - 海岸工学論文奨励賞は、海岸工学論文集に掲載され、かつ海岸工学講演会において講演を行った論文のうち、萌芽性あるいは独創性に富み、発展が期待される論文の 32 歳以下（海岸工学講演会開催年度の年度末時点で）の筆頭著者に対して授与される。ただし、過去に同賞の受賞経験がないことを条件とする。
 - 受賞は最大 3 編とする。
 - 5 名の査読者がノミネート論文（第 1 段・第 2 段審査で表点の高いもの）の全文査読を行う。
 - 来年度から実施するものとし、来年度の投稿システムをオープンするときにアナウンスする。（年度末での年齢あるいは生年月日を入力するよう、投稿システムの変更が必要）

5. 第 58 回海岸工学講演会の準備状況について（小笠原委員兼幹事）

- 見学会は、11 月 8 日（火）9:00～19:30 に実施する。A コース（沿岸北部周り）、B コース（沿岸南部周り）とも定員 40 名。
- シンポジウムは、11 月 12 日（土）13:00～16:00 に津波被害推定・軽減技術研究小委員会が担当して実施する。富田津波被害推定・軽減技術研究小委員会副小委員長から

案の説明があった。

- 展示スペースは、経費面の問題から第1会場正面を利用できない。2階を利用し、参加者の来場を促すような表示を行う。

6. 第59回及び第60回海岸工学講演会の開催（会場など）について

- 第59回は、平成24年11月14日（水）～16日（金）に広島国際会議場で実施する。前日シンポジウムを11月13日に同じ会場で実施予定。実行委員長は山下教授（広島大学）。
- 第60回は、福岡県で開催する方向で検討中。

7. Coastal Engineering Journal について（佐々木 CEJ 編集小委員会副委員長）

- Vol.52 No.1,2,3 の説明と、2006年～2011年の国別投稿状況について報告された。
- Tohoku Earthquake Tsunami Special Issue を2012年3月に発行するよう論文募集中である（10月末までに投稿）。

8. 研究小委員会の活動状況

- 広報小委員会（森小委員長）、沿岸域研究連携推進小委員会（重松小委員長）、津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会（富田副委員長）、数値波動水槽小委員会（岡安小委員長）、地球温暖化適応策検討小委員会（横木小委員長）、津波避難 WG（岡安主査）の活動状況が報告された。
 - － 広報小委員会：沿岸災害データベースがスタート（富山、東北）した。英語 web の充実を進める。一般の人のための情報集約を検討。討議集の省力化について検討。
 - － 沿岸域研究連携推進小委員会：第2回流域圏シンポジウムの主催者に。
 - － 数値波動水槽小委員会：出版は今年度中を目処に準備中。数値波動水槽のベンチマークテスト（WG4）の滑動が開始された。
 - － 津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会：海岸工学講演会で後日シンポジウムを実施する。
 - － 地球温暖化適応策検討小委員会：報告書作成中。
 - － 津波避難小委員会：被災者へのインタビューは時期について検討中。

9. 第47回(2011)及び第48回(2012)水工学に関する夏期研修会（Bコース）について（渡部委員兼幹事）

- 第47回は無事に終了した。参加者はAコース、Bコースともに69名。
- 第48回は北海道（北大）で開催予定である（水工学委員会が主担当）。Bコース担当

は渡部委員。

10. 国際会議の開催案内（後藤幹事長）

- Coastal Structures 2011 (Yokohama, 2011年9月5-9日) : 実施済み。開会式にて ASCE から震災調査協力に対する感謝の印として海岸工学委員会に盾が寄贈された。授与式には磯部先生に出席頂いた。
- APAC 2011(Hong Kong, 2011年12月14-16日)

作成：藤間